



(奈良)

奈良・平城京跡^{へいじょうきょう} (2)

- 1 所在地 奈良市山陵町
- 2 調査期間 第一〇三十一六次調査 一九七八年(昭53)二月
～四月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 狩野 久
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 古代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、平城京の条坊復元では右京北辺二坊二・三坪、一条北大路にあたる。駐車場建設に伴い、約一三〇〇m²を調査した。長らく本誌未掲載であったものである。

検出した遺構は、大きく三時期に区分される。一期(奈良時代前半)は二坪・三坪が一体として利用される段階で、調査区の南辺で

検出した一条北大路北側溝SD二八二(旧一六〇)と掘立柱塀に画される区画内に、桁行七間梁行三間の南廂付東西棟掘立柱建物SB一六五(旧二五〇)、南北棟掘立柱建物二棟などが配置される。二期(奈良時代後半から末まで)には、二坪と三坪は南北道路で区画されて分割される。この道路は、西二坊坊間東小路にあたりと推測され、右京北辺における坪境小路の確かな検出例として注目される。三期

(奈良時代末以降)の遺構は、掘立柱建物・東西柵・斜行溝などである。木簡は、一期の掘立柱建物SB一六五の廃絶後に設けられた、井戸SE一七七(旧二四五)の埋土から一点出土した。井戸は内法一・三mの方形で、深さは約二・六m、井籠組の井戸枠が八段残存する。共存遺物には、奈良時代末の土器がある。なお、遺物包含層からは、多量の円筒埴輪とともに、形象埴輪(家・盾)が出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) □丈七尺□□

091

9 関係文献

- 奈良国立文化財研究所『昭和五二年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』(一九七八年)
- 同『奈良国立文化財研究所年報一九七八』(一九七八年)
- 同『平城宮発掘調査出土木簡概報』一二(一九七八年)

(山本 崇)